

醸造協会

だより

3月号をお届けします。執筆時点では厳しい寒さと春の兆しを感じさせる温かい日が交互に来ており、三寒四温という状態です。2月4日には関東地方で春一番が観測されました。立春後最初の強い南風のことですが、統計を取り始めた1951年以降、最も早い記録とのことです。立春は例年は2月4日ですが、今年は暦の微調整の関係で1日早い2月3日になっています。その直後に春一番となったわけですから、この記録はなかなか破られないかも

しれません。長期予報では2月から3月の気温は高めの予想で、春の訪れは早いようです。東京の桜の開花については3月18日という予想が発表されています。記録的な暖冬で統計開始以来最も早い開花となった昨年の3月14日より遅いものの、平年値が3月26日ですから、かなり早くなりそうです。

2月7日までの予定で10都府県に出された新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言は、1月上旬のピーク時に比べれば新規感染者数こそ減少傾向であるものの、依然として医療体制の逼迫が続いていることから、3月7日まで延長されました。飲食店の営業時間の午後8時までの短縮、酒類提供時間を午後7時までとする要請も継続されており、酒類業にとっては厳しい状況が続いています。この欄でもたびたびお伝えしてきた総務省の家計調査について、2月5日に昨年一年間のまとめが発表されました。全体の消費支出は前年対比で5.3%の減少となり、比較可能な2001年以来最低の水準となりました。外食の食事代は前年対比25.4%の減少、飲酒代は53.9%の減少でした。家庭内での飲酒代は12.8%増となったものの、令和2年の全体の酒類出荷量は大幅な落ち込みとなっているようです。いろいろなところに新型コロナウイルスの影響が出ていますが、報道等で最近注意をひいたことの一つは犯罪の減少です。警察庁の調べによると、警察が認知した令和2年の刑法犯の数は前年比17.9%と大幅な減少で、戦後最少となったとのことです。新型コロナウイルス感染拡大の影響で人々が外出をひかえたことが要因ということで、なるほどと思いました。

さて、今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の放送が2月14日から始まりました。このドラマは、生涯に関わった会社数が約500と言われている日本資本主義の父・渋沢栄一（1840年（天保11年）～1931年（昭和6年））の生涯を描いたものです。実は、渋沢栄一は、晩年の61歳から91歳まで醸造協会からもほど近い北区の飛鳥山（東京府下北豊島郡滝野川村元西ヶ原）に住んでいたとのことです。旧渋沢邸跡地には渋沢栄一資料館があり、渋沢栄一に関する資料を収蔵・展示しています。庭園内には大正時代の建築である「晩香廬」と「青淵文庫」が現存しています。晩香廬（ばんこうろ）は木造洋風の茶室で、賓客のレセプション・ルームとして使用されました。青淵文庫（せいえんぶんこ）は鉄筋コンクリートの建物で、書庫および接客の場として使用されました。どちらも国の重要文化財に指定されています。また、近くの飛鳥山博物館には、東京23区で初めての大河ドラマ館が2月20日（土）からオープンする予定です。



晩香廬 1917年(大正6年)



青淵文庫 1925年(大正14年)